

—彙 報—

* 研究者の動向 (1976年)

馬淵東一教授

彙報第5号に記した東部インドネシアからの「スンバ島 “古事記”」は4月中に執筆を終り、初夏には刊行の予定。

1973年夏、シカゴ大学および周辺の数ヶ所で分散開催された第9回民族学・人類学国際会議の一部としてのシンポジウム「祖先崇拜」に提出された諸論文が *Ancestors* (ed. by Prof. William H. Newell, Univ. of Sydney, Australia) にまとめられ、Mouton Publishers, The Hague から1976年秋に出版された。これには馬淵提出の次の論文二つが含まれている。Optional Cult Group Affiliation among the Puyuma and the Miyako Islanders, pp. 93-103 および A Note on Ancestor Worship in “Cognatic” Societies, pp. 105-117. なお、この国際会議の民俗学部会はインディアナ大学で開かれ、それに提出された諸論文は *Folklore in the Modern World*. 2 volumes (ed. by Prof. Richard M. Dorson, Indiana Univ.) となって、同じく Mouton Publishers から近々出版の予定。それに提出の馬淵論文は Space and Time in Ryukyuan Cosmology, 25 pages in type であった。

1976年11月-13日、名古屋で開催された第30回日本人類学会・日本民族学会連合大会（世話役、愛知学院大学）の初日において、馬淵は「レヴィ・ストロスの “限定交換” および “一般交換” をめぐる余談」と題する特別講演を行った。その内容は、今夏に出版されるべきレヴィ・ストロス『親族の基本（むしろ原本）構造』（Claude Lévi-Strauss: *Les structures élémentaires de la parenté*. 改訂再版1967）邦訳の「あとがき」の一部をなすものである。

小林知生教授

ここ十年、東南アジア、ことにタイを中心とした大陸部における活発な先史学調査がつぎつぎに成果をあげている。かくて旧石器時代についてはモビウスの立論に修正が加えられねばならないし、ホアビアンについても半世紀をこえる理解に抜本的な転換をこころみなければならないし、さらにまた青銅器文化についてももはやドンソニアンにとじこめることが許されなくなっている。これら全般にわたる新資料の収集と吸収につとめている。

本年四月、ようやく東南アジア考古学会が発足したが、予期もしなかった会長に推挙され、責任の重大さをかみしめているが、以来、月例会を開くとともに、欧米斯学に劣らざる本学会の研究調査実現を念じている。

山田隆治教授

Sadhuism の社会的意義：インドには、いわゆる聖者とかが行者とかいわれているカテゴリーの「宗教的人間」が、カースト制度を基盤とするバラモンとほとんど同じ位古くから存在している。この両者の相互関係がインド社会の理解にとって不可欠と考えられるので、輪廻・解脱思想、グル師弟関係、宗派……等のいくつかのテーマにつき、イデオロギー的側面と社会的側面との両方から検討し、まとめる。

倉田 勇教授

- 人類学科着任 51. 4. 1
- 「家屋配置〈方位と場〉の形成——バリ島バトール湖周辺の事例考察」第15回日本民族学会研究大会報告（九大） 5. 15
- インドネシア共和国内の日本語教育の実情調査と北スマトラ、カロ・パタック、リング村の補足調査。（8. 12～9. 12）
- 「いわゆるメイトコ婚について、東スンバ調査報告」第30回人類・民族学会連合大会（愛知学院）
- 中村孝志編「インドネシア社会の宗教と慣習」に講演6回分を所収。 11. 26
- 「インドネシア旅行雑記」「南方文化」No.3. 10. 26
- 口羽，坪内，前田編『マレー農村の研究』1976. 創文社刊の書評「南方文化」No.3. 10. 26

伊藤秋男助教授

継続課題である朝鮮半島の横穴式石室墳の出現とその系譜を究明するため、1976年3月、南山大学特別研究費の助成をえて約2週間にわたって韓国に滞在、主として善山の院洞・禿同洞地区に分布する石室墳の踏査を行った。また11月には朝鮮考古学の理解を助けるため、ゼミおよび博物館実習の履修学生を中心とする35名の学生を引率して4泊5日の韓国研修旅行を実施、博物館施設をはじめ遺跡・史跡を見学した。

調査活動：岐阜県恵那市正家積石塚3号墳発掘（3・5月）・三重県度会郡南勢町道瀬浜包含地発掘（3月）・恵那市正家積石塚4号墳発掘（7月）・同正家廃寺址実測調査（7月）・同正家積石塚13基の実測調査（10月）・同阿木川ダム関係遺跡分布調査（10・11月）。現在これらの成果について報告書作成中。

早川正一助教授

昭和51年度の南山大学特別研究費の給付により、昭和52年3月3日から3月21日まで、西カロリン群島のヤップ本島ファニフ地区において考古学調査に従事した。

野村雅一講師

「身ぶり」は一方では技術と境界を接し、他方では狭義のジェスチャー（記号）につながっている。それはいわゆる形質（自然）人類学と文化人類学が直接的にまじわる場であり、形容詞なしの『人類学』にふさわしい研究対象と思われるが、今日まで世界の諸民族の「身ぶり」、あるいは身体技法についての記述はきわめて少ないのが残念である。とぼしいながらも、現在知られている資料をあたって、一定の観点から整理してみた。これは近く公開される予定である。（京大人文科研社会人類学共同研究報告）ひきつづいて来年度は、精神分裂症患者の身ぶりについて考察する。

ヨーロッパの伝承についての研究の一部は、まもなく『朝日ゼミナール・民族と伝承』の一章として出版される。（朝日新聞社刊）この研究は、来年度中にあらためて別な形で発表するつもりである。

森部 一助手

Embreeの指摘以来、タイ研究の一つの主要なテーマをなしてきた問題、即ち、「はたして、タイ社会が、loosely structured social systemを、その特徴としているかどうか」は、今日においても、まだ、十分に解明されるにいたっていない。さしあたって検討されねばならないのは、タイ農民の人間関係の特徴（=いわゆる“little-tradition”）であって、それを明示すると同時に、タイ仏教倫理（“great-tradition”）との関連で論じたのが、先に発表した論文であった（民族学研究41/4 1977.3）。現在は、そこで、明らかになった、二つの traditions の間のイデオロギー上の連続性を現実に支えている宗教社会的なメカニズムを、タイ社会の僧侶・僧院複合に注目することによって検討しているところである。

*行 事

4月1日。倉田勇教授人類学科着任。

5月。付属陳列室横の遺物収蔵庫にオープンスチール棚を設置、遺物収納の能率化をはかる。

5月16日。第1回博物館巡見会開催、東海銀行貨幣展示室見学、参加学生33名。

7月。文化人類学研究会 考古サークルの学生諸君の援助をえて、G棟地下の遺物収蔵庫兼整理室を整理する。

10月13日。第2回博物館巡見会開催、朝日貝殻山資料館・朝日遺跡群発掘事務所を見学、参加学生20名。

*受贈・交換図書（1976年1月～12月）

1. 20. 「ふびと」32（服部貞蔵）

26. 「真宮遺跡調査概報」2 (岡崎市教育委員会)
「桑飼下遺跡・発掘調査報告書」(舞鶴市教育委員会)
「港北ニュータウン地域内文化財調査報告」IV (横浜市埋蔵文化財調査委員会)
30. 「港北ニュータウン地域内文化財調査報告」V (横浜市埋蔵文化財調査委員会)
2. 10. 「八千代市村上遺跡群」・「飯山満東遺跡」(千葉県都市公社文化財調査事務所)
3. 27. 「恵那市史・史料編」(恵那市教育委員会)
4. 1. 「鈴木遺跡」(小平市教育委員会)
12. 「板付周辺遺跡調査報告書」3 (板付遺跡調査事務所)
「白岩遺跡」・「鴨生田」・「北九州市の埋蔵文化財」(北九州市教育委員会)
「瀬戸口古墳群」(リコー三愛経営管理本部)
20. 「全国遺跡地図」東京都・新潟県・石川県・和歌山県・高知県・長崎県(文化庁文化財保護部)
27. 「伊場遺跡発掘調査報告書」1 (浜松市立郷土博物館)
5. 4. 「慶州地区古墳発掘調査報告書」1・「慶州皇南洞第98号古墳(南墳)発掘略報告」(慶州史蹟管理事務所)
12. 「狸山遺跡」・「寺町遺跡」(北九州市教育委員会)
19. 「考古ものがたり」(末永雅雄)
20. 「新羅双墳 慶州九八号古墳」(慶州博物館)
「韓国美術五千年展」(姜友邦)
5. 27. 「札苅」(北海道開拓記念館)
31. 「尼崎市金楽寺貝塚」1 (尼崎市教育委員会)
6. 4. 「桃花台ニュータウン遺跡調査報告」(小牧市教育委員会)
7. 「千葉市誉田県立コロニー内遺跡」(千葉県文化財センター)
11. 「続・筏遺跡」(百人委員会)
14. 「平安鎌倉の金銅仏」(奈良国立博物館)
16. 「茨城県馬渡における埴輪製作址」(明治大学文学部考古学研究室)
18. 「古宮遺跡第1次発掘調査概報」(古代学協会)
19. 「かさまち」3・4 (河野克暢)
25. 「朝倉橋廣庭宮跡伝承地第3次発掘調査報告」(九州歴史資料館)
28. 「大阪市文化財地図」・「大阪市文化財地図台帳」(大阪市教育委員会)
「北海道開拓記念館一括資料目録」9 (北油道開拓記念館)
29. 「千田古墳群第32号古墳」(恵那市教育委員会)
「浜松市大田遺跡緊急調査報告」(浜松市教育委員会)
「高橋遺跡第6次調査概報」・「塚越遺跡調査概報」(豊田市教育委員会)
7. 9. 「岩子山古墳」・「御座所11号古墳」・「忽那山古墳」・「久万ノ台古墳」・「古照遺跡」・「文

- 京遺跡」(松山市教育委員会)
16. 「多宝律寺遺跡発掘調査報告書」(鎌倉市教育委員会)
8. 23. 「中ノ坊遺跡・三反田遺跡」(北九州市教育委員会)
- 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書」III・IV (千葉県都市公社)
- 「小針遺跡発掘調査報告」(知立市教育委員会)
9. 6. 「モン語彙集」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
30. 「国学院大学日本文化研究所概要」(国学院大学日本文化研究所)
10. 4. 「南野遺跡発掘調査報告」(美濃加茂市教育委員会)
7. 「砂川元島遺跡発掘調査概報 第2次」(青山学院大学文学部考古学資料室)
8. 「下本谷遺跡」・「県営駅家住宅団地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告」・「西本遺跡群」・「緑ヶ丘遺跡群発掘調査概報」・「大風呂古墳発掘調査概報」(広島県教育委員会)
15. 「トコロチャン南尾根遺跡」(北海道常呂町教育委員会)
- 「上種東古墳群第3号墳発掘調査報告」(土生田純之)
25. 「関西大学東西学術研究所訳注シリーズ 1. シナ・インド物語」(関西大学東西学術研究所)
11. 11. 「せとのこま犬展(図録)」(豊田市郷土資料館)
22. 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書」V (千葉県文化財センター)
12. 16. 「八女市室岡所在遺跡群調査概報」(福岡県教育委員会)
- 「市立名古屋科学館事業概要 昭和51年度」(市立名古屋科学館)
3. 18. Bratislavský Hrad V9.-12. Storöci. (Slovenska Akadémia Vied Archeologický Ustav Nitra)
5. 17. Occasional Papers in Anthropology No.5 (渡辺仁)
6. 8. La Mujer Indigena su Integracion al Desarrollo del Pais sin Menoscabo de sus Valores Etnicos. (Instituto de Antropologia e Historia del Estado Aragua, Maracay-Venezuela)
8. 25. Veröffentlichungen des Museums für Völkerkunde zu Leipzig Heft 27・30. (Museum für Völkerkunde, Leipzig)

* 受贈・交換定期刊行物(1976年1月～12月)

- 「愛知学院大学宗教法制研究所紀要」19(愛知学院大学宗教法制研究所)
- 「アジア・アフリカ言語文化研究」10～11, 「アジア・アフリカ言語文化研究所通信」26～27, 「アジア・アフリカ言語文化研究所要覧」1976(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

- 「アジア・アフリカ資料通報」Vol. 13 (9~12) ~14 (1~7) (国立国会図書館)
- 「佛教研究」3・5 (国際佛教徒協会)
- 「文化人類学研究会報」9 (南山大学文化人類学研究会)
- 「傳承文化」10 (成城大学民俗学研究所)
- 「北方文化研究」9 (北海道大学文学部附属北方文化研究施設)
- 「人文学報」115 (社会学13) (東京都立大学社会人類学研究室)
- 「上智史学」21 (上智大学史学会)
- 「関西大学東西学術研究所紀要」8, 「関西大学東西学術研究所々報」26 (関西大学東西学術研究所)
- 「古代人」32, 「古代人ニュース」4 (名古屋考古学会)
- 「国学院大学日本文化研究所報」Vol. 13 (1~4), 「国学院大学日本文化研究所紀要」36~37 (国学院大学日本文化研究所)
- 「駒沢大学文化」1~2 (駒沢大学文学部文化学教室)
- 「まつり通信」Vol. 16 (179~190) (まつり同好会)
- 「三重考古」1 (三重考古学研究会)
- 「民間伝承」Vol. 40~41 (1) (六人社民間伝承編集部)
- 「武蔵大学人文学会雑誌」Vol. 7~8 (1) (武蔵大学人文学会)
- 「長野県考古学会誌」21~26 (長野県考古学会)
- 「日本文化研究所研究報告」12・別巻13 (東北大学文学部附属日本文化研究施設)
- 「日本学術会議月報」Vol. 17 (1~10) (日本学術会議事務局)
- 「オリエント」Vol. 18 (2) (日本オリエント学会)
- 「歴史人類」1976 (3月号・10月号) (筑波大学歴史・人類学系)
- 「歴史と構造」5 (南山大学大学院文化人類学院生会)
- 「立正大学文学部論叢」55~56 (立正大学文学部)
- 「立正大学人文科学研究所年報」13 (立正大学人文科学研究所)
- 「立正史学」40 (立正大学史学会)
- 「社」Vol. 8 (1~3) (東京都立大学社会人類学研究室)
- 「史観」93 (早稲田大学史学会)
- 「信濃考古」30~37 (長野県考古学会)
- 「史料館報」24~25 (国立史料館)
- 「津田塾大学紀要」8 (津田塾大学)
- 「愛知県郷土・地方行政資料速報」63 (愛知県文化会館)
- 「平安博物館研究紀要」6 (平安博物館)
- 「北海道開拓記念館だより」Vol. 5 (3~4)・6 (1)・「開拓記念館調査報告」11 (北海道開拓記念館)

「科学館紀要」11 (市立名古屋科学館)

「神奈川県立博物館だより」Vol. 8 (4~6) (神奈川県立博物館)

「海のはくぶつかん」Vol. 4 (4)・5 (4)・6 (1-5) (東海大学海洋科学博物館)

「国立民族学博物館研究報告」Vol. 1 (1~3) (国立民族学博物館)

「九州歴史資料館研究論集」2 (九州歴史資料館)

「名古屋市博物館(仮称)準備年報」2 (昭和49年度)~3 (昭和50年度), 「建設準備ニュース」5~7 (名古屋市博物館建設準備室)

「人間博物館リトルワールドニュース」3~6 (リトルワールド)

「大阪市立博物館報」15, 「大阪市立博物館研究紀要」8 (大阪市立博物館)

「埼玉県立博物館だより」Vol. 4 (3~4) (埼玉県立博物館)

「東京芸術大学芸術資料館年報」1974 (東京芸術大学芸術資料館)

「横須賀市博物館研究報告」(自然科学)22, (人文科学)19, 「横須賀市博物館報」22 (横須賀市博物館)

「百済文化」第7・8合輯 (公州師範大学附設百済文化研究所)

「百済研究」第6輯 (忠南大学校百済研究所)

「馬韓・百済文化」創刊号 (圓光大学校馬韓・百済文化研究所)

Annali del Pontificio Museo Missionario Etnologico Vol. 38-39. (Monumenti Musei e Gallerie Pontificie Museo Missionario Etnologico, Vaticano)

Anthropological Papers of the American Museum of Natural History Vol. 52(5)-53(1). (The American Museum of Natural History, New York)

Asian Folklore Studies Vol. 34(2)-35(1-2). (Editor Matthias Eder)

Annual Report 1975. Asian and Pacific Quarterly of Cultural and Social Affairs Vol. 7(2-4)-8(1). Aspac Newsletter of Cultural and Social Affairs Vol. 7(6)-8(1-5). (Cultural and Social Centre for the Asian and Pacific Region, Seoul)

Australian Institute of Aboriginal Studies (Newsletter) No.5-6. (Australian Institute of Aboriginal Studies, Australia)

Bulletin of the National Science Museum. Series D(Anthropology) Vol.2. (National Science Museum, Japan)

Contribuições Para o Estudo da Antropologia Portuguesa Vol.8(7-8), 9(2-3). (Instituto de Antropologia da Universidade de Coimbra, Portugal)

Journal of Tamil Studies No.7. (International Institute of Tamil Studies, India)

Mitteilungen aus dem Museum für Völkerkunde zu Leipzig No.40. (Museum für Völkerkunde, Leipzig)

Pacific Science Association Information Bulletin Vol.27(4-6)-28(1-4). (Pacific Science

Association, Honolulu)

Préhistoire Ariégeoise Vol.30. (La Société Préhistorique de l'Ariège, France)

Smithsonian Contributions to Anthropology No.19, 22. Smithsonian Year 1975. (Smithsonian Institution, Washington)

Studia Cultural Islamicae No.1-4. (Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Japan)

Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Incorporated/ Report for 1974. (Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, New York)

* 特別受贈雑誌

「宗教研究」Vol. 44 (No.204) ~50 (No.228) (青山玄)

International Journal of American Linguistics Vol.20(4), 25-34.

Voprosy Jazykoznanija Vol.8(1-2). (土居敏雄)

* 南山大学人類学研究所紀要既刊号掲載論文一覧

第1号 (1972年)

南山大学人類学研究所紀要発刊の辞

沼 沢 喜 市

タイ語の転写と転字

日 下 部 文 夫

Chinese New Year Lanterns and Their Magic Significance

Matthias Eder

Eine Steinbeil-Werkstatt am obere Wagi-Fluss, im Hochland von Neu-Guinea

Heinrich Aufenanger

第2号 (1973年)

The Cultural History of Japanese Farmhouse

Matthias Eder

西ヨーロッパ旧石器における彫刻器の型式学的分析

早 川 正 一

第3号 (1974年)

ミクロネシア・ヤップ島民族学的調査予備報告

牛 島 巖

Reports about the Human Soul, New-Guinea, Eastern Highlands.

Henry Aufenanger

第4号 (1975年)

儀礼的汚れ

山 田 隆 治

アフリカの古生人類を中心とした歯冠の計測値にみられる比較変異の一考察

早 川 正 一

第5号(1976年)

韓国慶尚北道善山古墳群(I)

— 慶州における横穴式石室墳の発生とその特質について(予察) — 伊藤秋男
昭和20年代における愛知県古墳時代遺跡分布調査(尾張編) 伊奈森太郎

松村冬樹

(彙報:成田良子 編)